

# 社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより

令和4年冬号



## 京都光彩の会後援会のお願い



## 利用者インタビュー

- ・なごやかサロン



## 2022年の目標

- ・グループホーム



- ・京都市朱雀工房（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援）
- ・京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」
- ・こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」
- ・ワークステーション かれん工房（就労継続支援B型）
- ・相談支援事業所 こうさい（計画相談支援）
- ・西山高原工作所（就労継続支援B型）
- ・グループホーム賀陽、山ノ内、光（共同生活援助）



日々の現場では直面する課題に向き合っていくこと  
が求められますが、今一度歴史的な観点から課題を捉  
えなおす機会が必要なのでは、という思いに至ります。  
翻つて日本の障害保健福祉に目を向けると、施設内  
や家庭内で見られる虐待事件や、セーフティーネット  
からもこぼれ落ちる事例などが数多く見られます。一  
つひとつ的事例においては組織や家庭の問題点や現行  
制度の課題などが指摘されますが、歴史的な視点で見  
ると日本の障害保健福祉における課題は根本的な所  
は解決に至っておらず、それらの事件や事例は時と場  
所を変えて表出するに過ぎないという現実が見えてき  
ます。

そんな中、昨年に亡くなられた半藤一利氏の著書  
『語り継ぐこの国のかたち』（大和書房）を読みまし  
た。戦前の日本における政治の混亂や軍の暴走、そし  
て無謀な戦争に突入した時代の背景や原因が分かりや  
すく書かれています。この本の中で印象に残るフレー  
グがあります。「難局に対処するための处方箋はほか  
のところではなく、歴史のなかにある」。今の日本の一  
様に価値体系や制度原理といった基本的枠組みの安定  
性が揺らいでいる、という感覚の人々が捉えられてい  
る時こそ、歴史が最も信頼できる友として現れてく  
る、と半藤氏は語っています。

年明けよりコロナウィルス感染症が一気に拡張を  
見せていました。報道される感染拡大の状況と比例し  
て、周辺でも感染者の報告が上がってきてはその対応  
に追われる日々が続いています。

## 「歴史から学ぶ姿勢」

## 卷頭言

社会福祉法人 京都光彩の会  
統括施設長 中條 了

## 京都光彩の会後援会のお願い

『精神障がいのある人たちが、安心して、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に各事業の運営や計画実施を行っていきたいと思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進してまいりたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も隨時承っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



# 京都光彩の会 利用者インタビュー

皆様に京都光彩の会のことをもっと知るために、各事業所の利用者の方にインタビューを行いました。  
今回インタビューを受けてくださったのは、なごやかサロン利用者さんです！



## なごやかサロンの紹介



障害のある方やご家族、地域住民の方やボランティアが気軽に過ごすことができる場所が「ここらのふれあい交流サロン」です。ここに病を抱える方が安心して、落ち着ける場を提供しています。京都市には13か所あり、なごやかサロンはそのうちの1か所になります。なごやかサロンは平日夕方と土日の開所が特徴です。

お一人で過ごしたい方はもちろん、メンバーが集まれば将棋、トランプ、花札などのボードゲーム、「ボドゲ」と略されることもあるそうですが、盛んにおこなわれています。「ボドゲ」大会も今後、企画されているようです。最近は将棋のボランティアの方のご協力で対局の場面も見られます。またパソコンを自由に使える環境が整っており、Web検索やYouTube配信を楽しんでいる方もおられ、一定のルールの中でそれぞれの過ごせる場所になっています。

月1回、「話し合い」では来月の予定やサロンへの要望など、集まった人で意見交換をしています。

今もなお続く感染症予防として、利用の方に検温・消毒・マスク着用のご協力を頂き、三密対策をして制限がありながらもサロンの運営を継続しています。

【開所時間】平日：16-19時、土日：9-16時 【閉所日】火曜日、第3日曜日、祝日

サロン利用の方にお話を伺いました。  
仕事場から家に帰る方が距離はないけど、あまり家には帰りたくないでので、なごやかサロンに寄つてから帰宅する。

### Aさん

○なごやかサロンを利用したきっかけ

なごやかサロンを利用したのは2003年くらいで十九年くらいになります。当時、通院していた病院からなごやかサロンを紹介してもらいました。サロンのパンフレットか何かをもらったかは不明です。

過ごせる場所と当時は食事の提供がありました。その他、お薬や病院の情報交換ができるのではと思つていました。

○今も利用されているサロンの魅力は？

「落ち着ける場所です。」

家は家族がいて、口うるさくいろいろと言われてしまう。

サロンは曜日によって賑やかな時もあるけれど、その声はあまり気にならないし家に比べるとサロンの方がずっとといい。

○サロンに来られていないときはどうされていますか？

あとイベントに参加できることが、最近ではクリスマス会があり、プレゼント交換ができた。

書などの整理の仕事で週四回くらい行っている。

仕事場から家に帰る方が距離はないけど、あまり家には帰りたくないでので、なごやかサロンに寄つてから帰宅する。

### ○今後の利用の仕方

自分の体調の心配があるので、サロンで体調管理のためパソコンを使って調べることができ助かっている。

人と話をして情報を教えてもらい、時にはここらの休息の場として利用していくたい。コロナも早く落ち着いてほしいです。

### スタッフからみたAさん

博識な方。わからないことがあります教えて貰います。詳しく話してくれて、頼りになる存在です。




**Bさん**

○なごやかサロンを利用したきっかけ

なごやかサロンのことは利用する以前から知っていた。土、日曜日が開いているのはなごやかサロンだったので、ホームページから電話番号を調べて連絡をしたのがきっかけです。ま

ずは自分で電話をかけてから一人でサロンへきた。最初、ひとりは不安だったけど、顔みしりは不安だったけど、顔みしりの人もいて、少しづつ慣れてきた。今は土日をなごやかサロンで過ごすことが生活リズムになっている。土日をカフェで過ごす頻度が増えると経済的負担がかさみ、なごやかサロンの利用はお財布にやさしいかな。家からサロンまで距離はあるもののバスや地下鉄に乗ることができるので交通機関をつかって通うことができる。

○サロンの過ごし方

朝からサロンへきて、お昼は近くのお弁当屋さんで買って食べる。

ぬりえや人と話すこと、でも

話をしなくても顔みしりの人がサロンにいることが、「一人じゃない」と安心し、体調によつては静養室で横になり体を休めることもできる。誰かの気配がないと落ち着かないでの静養室でもサロンで過ごしている人の声が聞こえるのは安心感につながっている。行事は一度、クリスマス会に参加をしたこともある。

希望を言えば本当は静養室がもう少し、環境が整つてい、第三日曜日や祝日が閉所していればいいなあと思う。スタッフさんのお休みをおもうと無理言えないが…。

サロン閉所時は日中の過ごし方を考えてしまう。二月のよう二回祝日があつて予定が入つていいないと不安で何とか予定を作り、ない時は好きなカフェで過ごす。お気に入りのカフェの方も理解があり落ち着く場所になつている。

○今後について

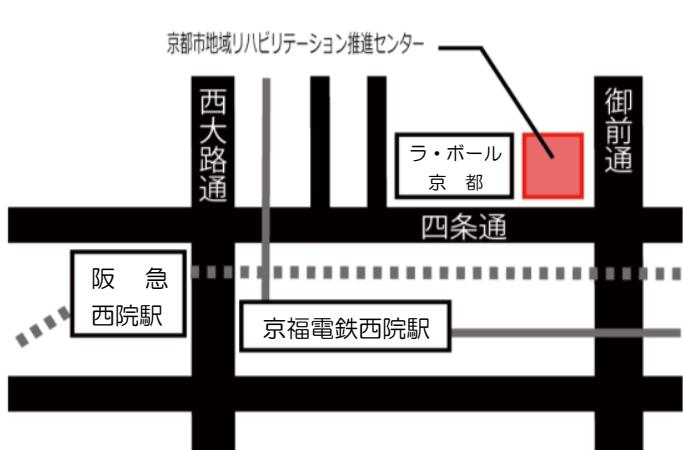
今後は、福祉サービスA型・B型もしくは就労移行への通所も考えていて…。担当の方と相談をして進めていきたい。


**スタッフからみたBさん**

本年度からのご利用です。土日に来所され、ランチの後、読書をされています。「少し歩いて帰りますね！」と元気に帰られるので、こちらがパワーをもらう感じもある。



## なごやかサロンへのアクセス方法



● 電車

阪急西院駅下車四条通東に徒歩5分

京福電鉄嵐山線 西院駅下車 東に徒歩3分

JR二条駅下車 南西徒歩 16分

● 市バス

3, 8, 11, 13, 26, 27, 28, 29, 67, 69, 71, 91, 203

四条御前通下車 すぐ





# 2022年の目標



グループホームの入居者さんに、  
2022年の目標を書いていただきました！



今年1年元気でいられるように。

病気には負けないように。

健康オー

かれん工房のメンバーさんへのインタビューは  
ホームページに掲載しています。  
ぜひQRコードを読み取ってご覧ください！



## 利用者大募集!! 就労 移行支援 就労 繼続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

### 広報委員会 委員

田中 稔一(支援センター「なごやか」)  
都竹 桃子(ワークステーションかれん工房)  
高橋 恒明(京都市朱雀工房)  
中村 美恵(支援センター「なごやか」)  
松岡 芽以(グループホーム賀陽・山ノ内・光)

WS!で最新の情報を伝えして光彩だよりをアップしてみました。最近は電子化が進んで紙媒体が少なくなっています。新聞でも漫画、雑誌もそうです。携帯があればいつでもどこでもみることができます。紙をめぐるのと画面をタッチするのでは脳の使っている部分が違うことはご存じですか?

またコロナによつてもたらした影響とは直接、対面できないかわりにオンラインが進んでいるか?退化しているのでしょうか?

(中村)

来年度も引き続き広報委員会では内容やWebサイトを充実させていきたいと考えております。引き続きよろしくお願ひいたします。

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



## 社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520  
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより  
発行:京都光彩の会 広報委員会  
発行責任者:中條 了  
印刷:西山高原工作所